

私の箱根駅伝応援記

東洋大学箱根駅伝優勝を応援する会会長 安藤 繁 晴
S46年法学部経営法学科卒

小学生のころに箱根駅伝のラジオ実況放送を聞き、熱狂的な箱根駅伝ファンになった私は、それ以来50年以上にわたり箱根駅伝の応援を続けている。

一年中箱根駅伝のことを考え、何十年間にわたりあらゆる大会を応援して回った。そして大会を見るたびに箱根駅伝の予想をする。次回の箱根駅伝では母校東洋大学はどうだろうか。各大学とも、どの選手がどの区間を走るのだろうか。あの選手はどんな走りをするだろう。それは本当に楽しい。

東洋大学が二年連続して予選会で敗れて箱根駅伝出場権を逃した時、東洋大学の出場しない箱根駅伝は寂しい、何としても出場してほしいと同級生はじめ仲間呼びかけて私設応援団を設立した。

あれから13年。弱かった東洋大学は優勝4回を数える強豪校になった。応援活動が報われてきた。主な応援活動の内容をご紹介します。

箱根駅伝、電車を乗り継ぎ全区間応援選手が間近を通ると興奮は最高潮！
山登りの選手の息遣いを感じたらもう箱根駅伝の虜に！！



夏合宿前と箱根駅伝本番前に支援金を届ける。物心両面で支援



各種大会応援



箱根駅伝を走った選手とのパーティー主催



箱根駅伝コースを選手と歩く一緒に歩いた選手が優勝メンバーに！！



安藤箱根駅伝ミュージアムへどうぞお越し下さい。

今年1月には上越タイムス紙第一面に取り上げていただきました。約30年間の箱根駅伝の新聞、雑誌、ビデオテープがあります。40年以上前の箱根区間賞選手のゼッケンやユニフォームもあります。優勝選手のサイン色紙や箱根駅伝ポスターなども沢山あります。どうぞご覧ください。

問い合わせ先 〒949-2112 新潟県妙高市関川960-7
TEL: 0255-78-7610 mail: shigebo-ando@ezweb.ne.jp



自宅に安藤ミュージアム



会報、箱根駅伝資料発行

山古志合宿を訪ねて ～成瀬雅俊選手に注目～

S34年社会学部社会学科卒 村田 弘

昨年8月、山古志合宿を訪ねた。五郎谷・名倉・成瀬・長谷川(中越高)・畑選手らが参加していた。一昨年までと参加メンバーがちょっと違うように思えた。

佐藤コーチによると、この合宿では「山登り(坂道)の適性をみたい」とのことであった。そこで合宿初日に、蓬平温泉入口から虫亀までの登り3kmの坂道2本が組まれていた。



蓬平温泉入口スタート・右端成瀬

2本ともトップでゴールした成瀬選手に「箱根5区をねらえるぞ!」と声をかけると、

何と力強い声で「ねらっているんです!!」と頼もしい返事が返ってきた。

12月29日に発表された箱根区間エントリーを見ると5区に成瀬選手の名前があった。箱根5区は、設楽啓太選手が起用されるのではないかと予想されていたが、今後のことも考えると成瀬選手への期



1.5km付近・トップ成瀬



虫亀 成瀬トップでゴール

待が高まってくる。結局、90回大会は予想通り設楽啓太選手が起用され、見事に優勝を成し遂げた。後に酒井監督・佐藤コーチの話を聞いてみると、もし当日強風であつたら、成瀬選手を起用するよう

準備していたとのことだった。

あの山古志合宿以来、いやそれ以前から、成瀬選手は箱根5区を目指して厳しく苦しい練習に励んでいたことだろう。箱根優勝祝勝会で会った時、そのことを語ってくれた。そして「次回は絶対に走りたい!!」と意気込みも語ってくれた。

酒井監督は「成瀬選手はロードの適性が高いので距離にこだわった指導を進めたい」と語っている。その一環として2月には犬山ハーフマラソン、4月には日本平桜マラソンに出場している。来年の箱根5区に成瀬選手の走る姿が見られるのではないかと期待が膨らむ。



スイカで水分補給・成瀬

◆◆ 陸上競技部山古志合宿募金の御礼 ◆◆

平成25年度の山古志合宿の募金は105名の方より総額374,400円のご寄付とシップ薬1箱を頂きました。本当に有難うございました。(校友会新潟県支部長 植木 宏)

伊勢路・箱根路で応援 ～迫力を実感～

S50年経営学部経営学科卒 山崎 久

大学駅伝応援のきっかけは、平成21年の第85回箱根駅伝の初優勝と山の神誕生だった。翌年の86回箱根から現地応援を始め、箱根は87回89回、全日本は平成22年の第42回と43回の応援に出掛けた。



86回箱根優勝・往路表彰

箱根は国民的行事といってもよく、沢山の方々から応援に行かれているので、今回は伊勢路応援に出掛けた時のことについて紹介したい。

まず、42回全日本大学駅伝には、娘と二人、車で1泊2日の応援だった。1日目の名古屋での夜は、優勝を願って名古屋の「矢場とん」で食事をした。駅伝当日は、7時頃に熱田神宮西門のスタート地点へ東洋大の応援団を探して一緒に行動。スタート後2区を走る柏原選手を迎えるため、三重県内の第2中継所へ直行。柏原選手は1位でタスキを



42回全日本・愛知県校友と

渡したものの、区間4位と不本意な結果でうなだれていた。その後松阪市まで選手を応援しながら車を走らせた。6区までは2位をキープしていた。松阪牛の老舗「牛銀」で昼食をして伊勢神宮のゴールに着いたのは大津選手が3位でゴールした後だった。選手達の健闘を讃え帰路につく。



42回全日本・2区柏原

43回大会は、東洋大学校友会主催の応援バスツアーに参加した。前日東京駅を出発して一路名古屋へ。ホテルは何と駒沢大学の選手と同宿。互いに健闘を誓い合った。最終区8区で柏原選手が猛迫したが一歩及ばず2位となる。結局は駒大が優勝した。駅伝の現地応援はTV観戦と違って迫力を実感し記憶にも残る。



箱根祝勝会・服部兄弟と

今年1月に90回箱根優勝を祝う会が東京であり、柏崎の仲間4人と出席した。選手と直接話をしたり激励したりして、選手を身近に感じ大変有意義だった。

校友会支部活動 topics

■ 安吾生誕祭「安吾の足跡を訪ねて」

「安吾の足跡を訪ねる」校友の集いは、平成25年10月20日(日)午後1時から「安吾 風の館」(新潟市中央区西大畑町)を会場に開催した。第一部として、公益財団法人新潟市文化振興財団の岩田学芸員に「坂口安吾の素顔と魅力」と題して講演していただき、その後、安吾が育った西大畑界限などを写真家で「風の館」館長の坂口綱男さんに案内していただいた。第二部は、場所をかえて、交流と懇親を深めた。今回の参加者は、第一部が9名、第二部が11名、延べ参加者としては、16名であった。

<坂口安吾の素顔と魅力>

岩田学芸員から、「安吾 風の館」についての紹介につづいて、安吾の生い立ち、少年時代・青年時代、文壇デビューの頃、戦後「墮落論」での再デビュー、その後の活躍、死後の70年代の再評価…などについて、わかりやすい楽しい話があった。

安吾は、新潟中学校を落第、放校され、東京の私立豊山中学校に転校、卒業後、代用教員になるが、仏教に憧れ東洋大学印度哲学倫理学科(現・インド哲学科)に入学。しかし、「仏教」や「悟り」への失意から、文学への情熱が再燃しアテネ・フランスでフランス語の勉強を始める。

大学卒業の翌年、処女作「木枯の酒倉から」発表。続いて、「ふるさとに寄する讃歌」、「風博士」、「黒谷村」を発表。新進作家の道を歩む。戦後の「墮落論」の発表が時代の寵児として注目をあびる。ある意味、再デビューしたとも言える。安吾全集の3分の2は、戦後の10年で書かれていること、作品は、評論、エッセー、



▲説明に聞き入る校友

純文学、歴史小説、推理小説、紀行文、ルポルタージュなど様々なジャンルに及び、それぞれに代表作がある。

<西大畑～安吾の生誕地～界限まち歩き>

その後、坂口綱男氏に、安吾が生まれた西大畑界限を案内していただいた。出発に先立ち、綱男氏は、父安吾に対する思いを語ってくれた。綱男氏には、安吾の記憶はなく、家に残された安吾の書籍が安吾そのもの。中学生の時に、満開の桜の下、16歳になって墮落論や日本文化私観を読んで、父親としての尊敬する反面、父を超えられない息子を自覚したという。それでも表現活動が好きで写真の道を行ってきた綱男氏。母親の他界を機に、父親と向き合いはじめ、今、風の館の館長として、安吾はもちろん、炳五(安吾の本名)君が、子どものころに見たり感じたりしたことを思えるようになったという。そんな話をお聞きし、まち歩きに出発。当日はあいにくの雨であったが、安吾生家のあった辺り、安吾誕生の地の碑、新潟カトリック教会、どっぺり坂などを案内していただいた。

講演まち歩きの後には、場所を変えて交流と懇親を深めた。一人ひとりが、安吾への思い、母校の思い出や近況などを語り合った。年を重ねるとともに、母校に対する親しみ・懐かしさが深まってくる。初めての参加であったが、同窓ということは何の気兼ねもなく楽しめた。などの声も聞かれた。次の安吾忌での再会と来年、新潟市で開催される県支部総会の盛会を誓い合って散会した。



▲雨の中案内をする坂口氏(中央)と岩田学芸員(左)

■ 安 吾 忌

我らが東洋大学の校友で新潟市出身の作家、坂口安吾の命日にあたる2月17日に新潟市秋葉区大安寺で「安吾忌」が営まれました。大安寺は、安吾の父祖の地で、また、安吾が眠る坂口家の墓所の地でもあります。



▲新潟駅前の碑文

新潟駅の近くに安吾の文学碑があります。碑文には、「あちらこちら命がけ」とあります。これは、坂口安吾が妻の三千代に送った色紙から取られたも

のだそうです。「あちらこちら命がけ」の裏には、新潟を舞台にした坂口安吾の長編小説「吹雪物語」の一節を直筆原稿から取ったものが刻まれています。

新津駅から車で10分ほどの大安寺集落開発センターが、安吾忌の会場です。この会場の目印でもあるのが、壇一雄の文学碑です。碑文は「亡き友の泳ぎし跡か川広し」この句は、作家壇一雄氏が安吾の墓参りの時に詠んだ句だそうです。

大安寺での安吾忌は、今年で26回目です。平成20年からは、新津安吾の会、安吾の会、松之山安吾の会とともに東洋大学校友会も併催ということで協力しております。事務局を担当する新津安吾の会の方の司会で開会し、挨拶に続いて、「坂口安吾と現代－歴



▲壇一雄の碑文

史の見方考え方」と題して東洋大学名誉教授神田重幸先生の講演がありました。先生は、「余は偉大なる落伍者となって歴史のなかによみがえる」と、中学校の教室の机の裏蓋に彫って上京した安吾が、様々な仕事に取り組んだこと。又、大河ドラマに触れながら、安吾は、歴史上の人物としては、黒田官兵衛と直江兼統の二人が好きだったこと。過去の秘められた歴史に挑戦し、歴史のひだに隠された史実に挑戦してきた安吾であるが、安吾の発想は、新潟が起点であると…安吾巷談を再度読んで感じたことを紹介していました。



▲こんなおもてなしも



▲暖かい甘酒のおもてなし

吾巷談を再度読んで感じたことを紹介していました。講演の後は、墓所に移動して法要が営まれました。参加者約90人が墓前に手

を合わせました。安吾の会、地元大安寺の自治会・老人クラブの方々の寒い中での暖かい甘酒やお漬物のおもてなしが、ありました。

墓前祭のあとは、場所をかえて懇親会が行われました。

杯を交わしながら、安吾の作品や安吾の人柄など楽しく語り合っていました。

毎年、安吾の命日の2月17日に安吾の眠る新潟市秋葉区大安寺で「安吾忌」が営まれています。

次の機会に校友の皆さんとお会いすることを楽しみにしています。



▲懇親会ではあちこちで安吾談議に花が咲く

■ 第9回大学対抗親善ゴルフ大会に参加して

S53年工学部応用化学科卒 吉田 実

昨年の10月20日(日)に第9回大学対抗親善ゴルフ大会が開催されました。東洋大は第8回大会に初参加し、今回は上越と長岡の混成で2チーム出場しました。メンバーはAチームが小生と澤海(そうみ)雄一さん、杉澤洋子さん、高島幸男さんの4人でした。またBチームは米山康久さん、西脇晃さん、高坂寛二さんの3人でした。

会場の妙高サンシャインは妙高山の裾野に広がる風光明媚なゴルフ場ですが、当日はあいにくの雨で各選手はコンディションの悪い中悪戦苦闘していました。プレイ後はホテルの展望風呂で汗を流し、その後団体戦と個人戦の表彰式が行われました。団体戦ではBチームが12位(敢闘賞)、Aチームは13位で、個人戦は西脇さんが7位に入賞されました。

今年度の第10回大会は10月19日(日)に妙高サンシャイン(主催が同ゴルフ場のため会場は変わりません。)で開催されます。参加希望の校友は小生まで連絡をお願い致します。(携帯電話:080-5063-6562 電話は夕方をお願いします、メールアドレス:m.yoshida@naoden.co.jp)

〈出場選手のご感想〉

● S57年法律 高坂 寛二

上越支部のお誘いを受け大学対抗ゴルフ大会に参加させていただきました。

あいにくのドシャブリの中ひたすら東洋大学チームの足を引っ張り、ブービーメーカーという不名誉な賞をいただきました。おまけに5番アイアンを池ポチャ?という前代未聞の失態(笑)我がアイアンはまだ妙高の池に眠っています。

今年は強力磁石をバッグに入れて?参加したいと思えます。

● S46年短大日本文学 杉澤 洋子

あの時、もう少し左に打っていたら、とかもう少し技術があればとかで落ち込むことばかりです。今年こそはと思い続けてかれこれ数年、ほんとにゴルフはままになりません。でも息長く続けていきたいと思えます。足を引っ張りませんように。

● S48年経済 澤海 雄一

昨年は、大会開始時間に遅れてしまい、学友の皆さまに大変ご迷惑をおかけしました。こんなことはゴルフ人生の中で初めてでしたが、今年出場の機会があれば、昨年の分も頑張りたいと思っておりますので、宜しくお願いします。



▲出場した東洋大Aチーム(左から高島、澤海、杉澤、吉田の4氏)



▲東洋大Bチーム(左から高坂、米山、西脇の3氏)

■ 三 三 会 (同期会)

S 33年文学部国文学科卒 内 田 美 磋 子

文学部国文学科を昭和33年3月に卒業した。同期会は、ブランクの年もあったが、年一回集まる機会は続いている。いつの頃からか「三三会」と称している。ずっと東京での開催だったが、いつの間にか出身県の人が順番に担当するようになった。

初代幹事長は、新潟市出身の五十嵐君。毎年企画運営してくれたので、続いてきたことに感謝している。現在は、東京在住の人が継続して案内を出してくれるので、嬉しい限りである。

新潟県では、20年位前に岩室温泉で開催した。北海道、広島からも駆けつけて、30名位で盛大に開催した。弥彦神社に参拝、参道を歩いて土産物店を見たりして、宿へ。途中、宝酒造に寄り試飲してメートルを上げた兵もいた。弥彦山、角田山を見ながら翌朝早起きして登るぞなどと寝言を言う人も。

翌日は、又宝酒造に寄ってから宿のバスで良寛の里めぐりへ。改めて弥彦山、角田山を眺めて良寛と貞心尼のゆかりの庵へ。昔も今も男女の心の交流は続いていることを確認。赤いつり橋を揺さぶりながら童心に却って渡って来た。長岡駅に着いてからも三々五々別れを惜しみつつ、再会を約して解散した。

後に家族を連れてぜひ来たいという人達もいて、本当に良かったと。日頃はそれ程、故郷を意識していなかったが、見直す良い機会になったと思った。今度は、佐渡へ行きたいと話が出ており、いつか案内できる日が来ることを願っている。

県内には、文学者が多く生まれているので、文学散歩には事欠かない筈である。新潟県は、細長い地形で移動時間がかかるけれども見所いっぱい。同期生は、それなりに楽しみにしているが、人数が減りつつあるのも現実。

一昨年11月23日、大学創立125周年に、三三会も一緒に開催した。たしか、6号館6階の一室を借りて、30名位が出席した。

全員で式典に参加したが、懇親会の途中で品川の会場へ移動して、三三会を開催。この時に幹事から、今回で解散したいと話が出た。

嫌だ継続したいとの声が大で、希望者だけで連絡し合って集うことにした。多分今まで通りのメンバーが集うことだろうと思っている。特に県内の同期とは、今までと同じく春と秋に計画実施の予定である。県外の仲間からも声を掛けてほしいと要望あり、楽しみにしている。今年は、すでに3月に湯沢温泉で集った。いつも2泊3日。秋は、上越方面を計画中で、待ち遠しい限りである。近年は、疲れなように程々の計画で、温泉に入っのんびりし、美味しい郷土料理に舌つづみを打って、飲み交わしている。夜中まで話が盡きず、寝るのさえ惜しんで過ごしている。時々景色を眺めたり、散策したり、大声で笑い話して、楽しいひとときを送って、これで又長生きできると喜んでいる。



▲東洋大学文学部国文学科「三三会」H24.11.23
会場：ザ・プリンスパークタワー東京
(創立125周年記念式日に併せて)

■ 箱根駅伝祝勝会 & 新年会報告

S 62年法学部経営法学科卒 大 岩 久 枝

平成26年1月2日、テレビの前に釘づけでドキドキの応援。往路優勝！総合優勝を確信した私、次の日はスキーに出かけ、そこでゴールの瞬間を見る。拍手！強すぎ！感動！！いい年を迎えられた。

そんな興奮冷めやらぬ2月21日、恒例？の祝勝会兼新年会に参加させていただいた。世代も学部もこ



えて、箱根や学生時代の話に花が咲く。何といっても優勝の2文字は格別。お酒も料理も進む。糸川川にも大

勢の卒業生がいる。同級生とはもう年賀状だけの付き合いになってしまっているけれど、地元で先輩方や後輩の方と楽しい時を過ごすことができ、幸せ。大学の様子とか地域の事とかも知ることができて、とても有意義なひと時である。こういう会を企画してくださる方いつも感謝している。この絆をいつまでも大切にしたいと思う。



できるなら毎年
一年が箱根優勝で始まりますように

校友のチームが 軟式野球の全国青年大会で優勝

東京都で平成25年11月8日～11日の日程で行われた第62回全国青年大会（選手資格35歳以下）の軟式野球で、結成2年目のJBC毘沙門（上越市）が初優勝し、見事に日本一に輝いた。大会初の同県対決となった決勝で3-0と快勝し、準優勝だった昨年の悔しさも晴らした。

チームは昨春、上越総合技術高（旧高田工高）出身の選手を主体に発足した。28人の全メンバーが高校野球経験者。早起き野球連盟や全日本軟式野球連盟にチーム登録していないため、既存チームから有力選手が集まっている。

旧高田工高卒業後、東洋大やクラブチームで関東大会優勝の実績を持ち、「上越の野球を強くしたい」とチームを立ち上げた五十嵐主将兼

代表は「技術だけでなく、野球への取り組みや思いが強いチーム。来年も優勝旗を上越に持ち帰りたい」と連覇をにらんだ。



五十嵐雅さんから一言



私の学生生活は部活漬けの毎日でした。工学部ということで実験・研究、レポートに追われる日々が多い中、高い目標に向かって毎日部活で汗を流していました。私の在籍した4年間は選手層も厚く強い気持ちを持った選手が多くいました。そんなチームメイトとは部活以外にも生活を共にすることが多く今でも定期的に集まって思い出話に花を咲かせています。東都1部リーグでの創部初・理系大学初となる優勝を成し遂げた喜びは今でも鮮明に覚えています。

私は現在、地元上越市で自らが代表兼主将としてJBC（上越ベースボールクラブ）毘沙門というクラブチームを立ち上げ、昨年の第62回全国青年軟式野球大会にて結成2年目で全国制覇を成し遂げることが出来ました。大学時代に高いレベルで経験してきた野球が現在でもベースになっていると実感しています。JBC毘沙門結成後、上越市の野球レベルが大きく向上してきたことも肌で感じ嬉しく思います。今年は青年大会連覇、マルハンドリームカップ全国大会出場という大きな目標を立て、「勝ちきる力 負けない強さ」のチームスローガンの下、努力を重ねています。応援よろしくお祈りします。



五十嵐 雅さん プロフィール

昭和59年2月17日生まれ

平成14年4月東洋大学工学部電気電子工学科入学 → 平成18年3月卒業

- 入学と同時に体育会軟式野球部に入部。内野手として1年から活躍。
- 東都学生軟式野球連盟に所属し平成14年秋季リーグにて亜細亜大学を入れ替え戦で破り1部リーグ昇格を果たす。
- 平成15年秋季リーグにて創部初の1部リーグ優勝を果たす。（東都学生軟式野球連盟としても理系大学が1部リーグ優勝を果たしたのはこの一度だけ）→東日本大会出場
- 大学卒業後は川越市のクラブチームにスカウトされ内野手として活躍。
- 平成20年に川越市→西部地区→県大会と勝ち上がり、第14回関東選抜軟式野球大会にて川越市部初となる優勝を果たす。
- 平成22年に上越市に戻り、今までトップクラスのレベルでやってきた野球を上越に広めるべく、中学・高校の同級生、後輩に声をかけ平成24年に自らが代表兼主将としてJBC（上越ベースボールクラブ）毘沙門を結成する。
- 平成24年度 第6回マルハンドリームカップ新潟県大会優勝
第61回全国青年軟式野球大会準優勝
- 平成25年度 第7回マルハンドリームカップ新潟県大会優勝
第62回全国青年軟式野球大会優勝

山 登 り

S39年経済学部経済学科卒 小島正弘

絶景、素晴らしい山、三座を上げると、まず槍ヶ岳(3,180m)上高地から足元に気をつけながらひたすら登ること9時間かけて山頂へ、槍ヶ岳山荘から山頂まで100m岩山である。山頂まで往復1時間、山頂は10畳ほど意外と広く20人位立てる。しかし八方が断崖である。360度のパノラマが広がり、素晴らしい絶景が疲れを忘れさせてくれた。山荘では生ビールで乾杯、これがまた最高です。

つぎに劔岳(2,998m)室堂から劔山荘(泊)裏山の雪を利用したシャワー付、こんな山荘は初めて、難所は登りはカニのた



▲劔 岳

てばい、約50mの岩場、下りはカニのよこばい高度感のあるトラバース、つぎに急なハシゴ約15m、鎖の登り20mそのほかに多数のクサリ場がある。神経を集中し慎重に慎重に、険しい山でした。

その後の立山連峰の縦走は絶景を楽しみながらのものとなりました。

奥穂高岳(3,190m)上高地から涸沢ヒュッテ(泊)夏の涸沢カールは大勢の人で賑わうテント村は、いろい



▲大天井岩から遠望する槍ヶ岳

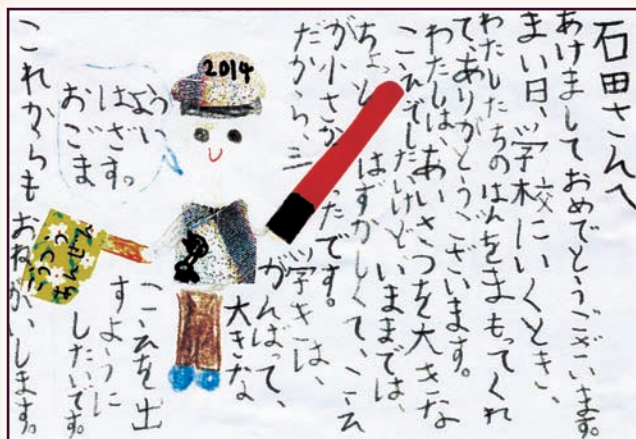


▲奥穂高岳 補高の夕景

ろな色のテントで花が咲いたようだ。カールの底から岩を敷き詰めたような道をトラバースし、ザイテングラードに取り付き、急登が続くがまもなく穂高岳山荘の前に出る。山荘から50分位で山頂、穂高神社の山宮が祀られた大きなケルンがあり横に展望指示盤がある。ご来光や落日、雲海の眺めを楽しみ、山岳風景の醍醐味を味わえる山であった。

燕岳・大天井岳・常念岳・蝶ヶ岳等表銀座縦走コースも素晴らしい風景を見せてくれる。

上越の石田氏に届いた年賀状が文部大臣賞を受章



石田秀男氏 (S41年経済学部卒) が児童の毎朝通学時に交通安全を立哨指導してくださることに感謝をし、地元の小学1年生山田美輝ちゃんが石田氏に差し出した年賀状が、全国年賀状コンクールで文科大臣賞受賞しました。石田氏は「とてもかわいらしい年賀状が届きうれしかった。大変な賞を頂いた物ですから、みきちゃんにお返しします。心のなかに大切にしまっておきます。」とうれしそうに話しておりました。上越よみうり3月20日の新聞に掲載されました。

平成26年度代議員会報告

S31年文学部史学科卒 植木 宏

平成26年5月24日(土)午後1時より東洋大学白山校舎5号館井上円了ホールで開催されました。その概要をご報告いたします。

〔協議事項ならびに報告事項〕

- 第1号議案 平成25年度会務報告について
- 第2号議案 平成25年度決算報告について
〔監事監査報告・公認会計士監査報告〕
- 第3号議案 平成26年度事業計画(案)について
- 第4号議案 平成26年度予算(案)について
- 第5号議案 東洋大学校友会会則・同施行細則(改正案)について
- 第6号議案 東洋大学校友会会長・副会長選出規則(案)について
- 第7号議案 東洋大学校友会常任委員選出規則(案)について
- 第8号議案 東洋大学校友会監事選出規則(案)について
- 第9号議案 東洋大学校友会事務局職員就業規則(改正案)について
- 第10号議案 東洋大学校友会事務局職員給与規程(改正案)について
- 第11号議案 準会費の代理徴収について

- 報告事項 ①校友会創立120周年記念行事等について
②校友会ブロックの編成替えと名称変更について
③その他

質疑応答の結果、すべての事項において承認されました。

※去る3月24日付けで学校法人東洋大学福川伸次理事長から、平成27年度以降準会費(学生から徴収)の代理徴収を取り止める旨の通知を受けました。これを受けて、代議員会の最重要議題として説明され、討議がなされました。最終的には、本部提案の「校友会の短・中期経営計画案」・「事業見直し案」などが可決されました。今後はきびしい財政情勢になります。

※ブロックの編成替え(全国を10ブロック編成にし、平成26年4月より変更)新潟県支部は北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野)に入ります。

※表彰…表彰規定により、支部長永年表彰(在任10年)5名、代議員永年表彰(3期9年)2名、退任支部長表彰(平成25年度退任)6名がそれぞれ表彰されました。

事務局より

◎校友会費納入についてのお願い

支部活動は校友会費納入による、支部還元金よって運営されております。納入頂いた方には、校友会本部から「東洋大学校友会報」が年4回送付されます。この雨水も還元金によって多くの方々の手をわずらわし、発行させていただいております。

年会費 3,000円 終身会費(1回完了) 50,000円
郵便振替 口座番号 00150-0-91833
加入者名 東洋大学校友会

◎雨水では、校友からの作品(絵画、書道、俳句、短歌、挿絵、生け花、盆栽等)を募集しております。

自薦、他薦いずれでも結構です。又、校友の動静がわかりましたら、ご連絡おねがいします。

【連絡先】

会報部長	吉田 実	〒943-0804 上越市新光町2-3-33	電話 025-525-7458
上越地区事務局長	山崎 次男	〒940-0145 上越市大字今池498	電話 025-525-4086
中越地区事務局長	高坂 寛二	〒940-0098 長岡市信濃2-10-35	電話 0258-35-5878
下越地区事務局長	斎藤 淳	〒959-1811 五泉市三本木3-1-16	電話 0250-43-1289
会報事務局長	本間 直彦	〒950-0992 新潟市中央区上所上1-12-6	電話 025-283-3919

校 歌

作詞 林 古溪
作曲 山田 耕筈

亜細亜の魂再び此処に
目覚めしよろこび溢れつ人に
雄々しく掲げたり鬨の声
東洋大学生れぬかくて

亜細亜の天地暁明けて
仁義と慈悲との誠の光
今こそ輝け西の海
東洋大学務は重し

命に秘めたる教を開き
変らぬ御国の姿を示し
おろがみふさせん四面の国
東洋大学栄えよ永久に

編集後記

今年で雨水が第30号となりました。これまでの多くの先輩方のご努力に敬意を表するとともに次の世代に引き継いでいく責務を感じております。これからも校友の皆様の近況や活動の紹介などを豊富に掲載し楽しんでいただける雨水を目指します。

第30号では表紙に箱根駅伝で活躍した新潟県出身の服部兄弟の力走写真を載せました。この写真は「東洋大学箱根駅伝優勝を応援する会」会長の安藤繁晴さんから提供いただきました。本誌発行に際して快く原稿依頼に応じていただいた皆様に深く感謝申し上げます。また、編集では本間会報事務局長さんや県支部役員の皆様からご協力いただきありがとうございます。各地区だより、校友活動紹介など校友の交流のための情報をもっと発信できればと思います。来年の第31号雨水発行に向けて校友の皆様からイベント情報やご意見を沢山いただきますようお願い申し上げます。

会報部長 S53年工学部応用化学科卒 吉田 実